

令和 8 年 9 月 29 日

イオパミドールを用いた消化管造影検査を受ける患者さんへ

当院では、これまでガストログラフィンを用いて消化管穿孔、縫合不全、狭窄、閉塞等が疑われる患者さんや外科的加療のための術前検査として消化管造影検査を実施していました。しかし、製造販売元より供給制限が通知されており、安定的な供給が困難な状況となっています。一方で、代替造影剤となる国内承認されたものは他にないのが実情です。このため当院では、代替造影剤としてイオパミドールを用いた消化管造影検査を実施します。イオパミドールを用いた消化管造影検査を行うことは、当院の臨床倫理委員会にて承認され、病院ホームページにて情報を公開することとしております。当院では、診療上必要と判断した場合に限り本剤を使用します。本剤の使用を希望されない場合には、担当医までお申し出ください。

【使用する医薬品について】

イオパミドール（製品名：イオパミドール 300 注）は、日本国内では主に血管造影、CT 検査、尿路造影などの検査に広く使用されている非イオン性ヨード造影剤です。（国内では経口投与は承認されていません。）

【使用方法】

検査目的に応じて経口または消化管内へ投与 し、X 線透視や撮影を行います。消化管造影検査は国内添付文書上の適応には含まれていないため、本使用は適応外使用に該当します。海外では消化管穿孔や縫合不全が疑われる症例に対する水溶性造影剤として使用実績があります。

【効果】

消化管の狭窄、閉塞、穿孔、縫合不全などの診断や必要な治療方針の決定に用います。

【副作用】

イオパミドールは長年使用されている造影剤ですが、下痢（1%以上 10%未満）、吐き気、嘔吐（0.1%以上 1%未満）・誤嚥および肺合併症の報告があります。さらにヨード造影剤であるため、吐き気、嘔吐、発疹、かゆみ、蕁麻疹、血圧低下、呼吸困難、アナフィラキシーショック（重篤なアレルギー反応）等の過敏反応が起こる可能性があります。また、重篤な副作用の頻度は低いものの、まれに生命に関わることがあります。

【注意点】

過去にヨード造影剤で副作用が出たことがある方は、必ず担当医にお申し出ください。・気管支喘息や他の薬剤で重いアレルギー歴がある方は、副作用が起こりやすい場合があります。検査中や検査後に気分不良、発疹、呼吸苦などが生じた場合は、直ちに医療スタッフへお知らせください。

【医療費】

本検査に伴う費用は通常の診療費として取り扱われます。副作用や合併症が発生した場合は、最善の治療を行います。また、国内では適応外使用にあたるため、万一副作用が生じた場合、国の「医薬品副作用被害救済制度」の対象外となる可能性があります。

本剤の適応外使用を希望されない場合でも、そのことを理由として診療上不利益な取り扱いを受けることはありません。ただし、本剤を使用しない場合、他の検査法への変更、または病変の評価が十分にできない可能性があります。拒否される場合またはご質問がございましたら、いつでも遠慮なく、担当の医師、看護師または薬剤師までお尋ねください。

独立行政法人国立病院機構米子医療センター

TEL 0859-33-7111 （代表）

FAX 0859-34-1580